

はじめに

既存のレイアウトや全4章の展示構成を活かしつつ、資料の入替えや追加を検討していく。並行して解説パネルも見直し、「引揚港・博多」の歴史的文脈をより重視した内容にする。

1 展示方法の工夫と改善

(1) 壁面と展示台への装飾

引揚資料は紙モノが多く、展示面が素地の状態では色彩が単調になりがちのため、壁面にはドライマウント加工パネル、展示台にはフェルトやカッティングシート等で化粧を施す。



【参考】ドライマウント加工パネルを設置した展示室（平和祈念展示資料館）

(2) 資料の特性を考慮した展示

絵画や写真…画像データから複製物を作り、額装やアクリルで展示する。
紙資料 …冊子類は、表紙だけでなく中身も閲覧できる状態で展示する。
モノ資料 …必要に応じて演示具を製作し、展示に不具合がないようにする。

(3) 写真とモノ資料の組合せ

写真は分かりやすく、モノ資料には説得力がある。
写真とその写真に写っているモノ資料をあわせて展示することで、キャプションだけでは伝わらない当時の様子をうかがい知ることができる。



博多埠頭内宿泊所で荷物の整理を行う満州引揚者
(米国立公文書館資料)



赤ん坊のおくるみなどを入れた柳行李
(福岡市所蔵)

2 博多港の特徴を捉えた展示

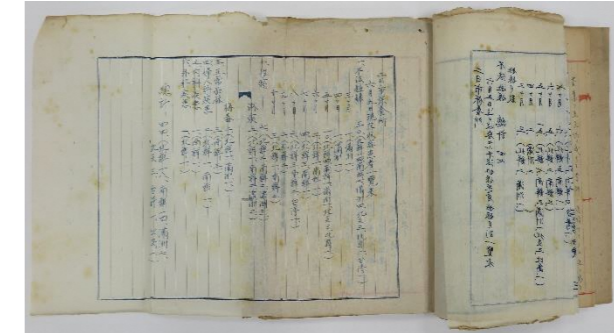
(1) 聖福寮と二日市保養所

京城日本人世話会と移動医療局、在外同胞援護会救療部と聖福病院など、国内外を通じて日本人の引揚げに尽力した様々な組織が存在したことを伝える。

※引揚孤児や女性患者に関する資料情報の公開範囲は、今後の検討事項としたい。



聖福寮の孤児アルバム（福岡市所蔵）



二日市保養所の収容患者一覧表（福岡市所蔵）

(2) 博多港に引き揚げた著名人

博多港に引き揚げた漫画家が自身の体験を基に描いた作品などを紹介する。

※ただし、展示構成上の検討及び利用の許諾が必要となる。

3 継続的な展示入替の方策

(1) 特集コーナーの設置

展示入替が完了した後、対象とならなかった資料の活用策を見出すことは重要である。しかし、展示全体の資料入替を頻繁に行うことは容易ではない。また、展示スペースは限られていることから、展示スペース内の一区画を特集コーナー（仮称）とし、同コーナーの内容について定期的に見直し、資料の入替が行われるようにしたい。

※どの程度スペースを確保するかは現在未定であるが、パネル1枚と資料数点を想定

※例えば、「引揚者と伝染病に関する展示」や「引揚げの写真をカラー化した展示」など、時宜にかなった展示や人々の興味・関心を引く展示の内容を想定

(2) 計画的な保存修復の実施

保存状態から優先順位を設けて、毎年度の予算でレプリカを製作する。

同様に、紙資料の脱酸処理や修復などの処置も適切に行う。